



# ふくち基弘

## 県政だよりvol.80

### INDEX

- 予算特別委員会にて子育て不安解消等について質疑
- ケアラーへの支援や児童生徒のうつ病対策を
- 広島県議会政治倫理審査会の委員に指名

<http://ameblo.jp/fukuchi-motohiro/>

連絡先 : ふくち基弘事務所  
 広島県広島市西区己斐上2-36-7  
 電話/FAX 082-271-5369

# 予算特別委員会にて子育て不安解消等について質疑



2月定例会中に予算特別委員会で質疑する様子

広島県議会2月定例会は3月15日までの会期とされていましたが、3月15日に新型コロナウイルス感染症対策として32億円の追加補正予算が上程されたことから、16日まで1日延長された上で当初予算や補正予算などの議案が可決成立しました。

また2月26日に予算特別委員会が設置され、ふくち基弘は副委員長に選任されました。3月1日から11日まで開かれた委員会で、2021年度の一般会計当初予算等に関連して、コロナ禍における女性の子育て不安解消等について質疑を行いました。質疑の内容は下記のとおりです。

### ○コロナ禍における女性の子育て不安解消について

(質問) コロナ禍により女性の生活不安などが表れているが、県として、女性の子育て不安の解消に向け今後どのように取り組んでいくのか。

(答弁) 本県では、社会全体で子育て家庭を妊娠期から切れ目なく見守り、支援する「ひろしま版ネウボラ」の構築に取り組んでおり、コロナ禍においても出産や子育てにきめ細かな支援を行っている。引き続き社会情勢や子育て環境を取り巻く状況を注視しながら、必要な支援を届けられるよう取り組む。

### ○コロナ禍におけるカスタマーハラスメント対策について

(質問) コロナ禍において急増しているカスタマーハラスメントへの対策を早急に講じる必要があると考えるがどうか。

(答弁) カスタマーハラスメントは、労働者が安心して働くことができる職場環境を整備していく上で重要な問題であると認識している。県としてこれまで、企業等を対象とした「顧客等からのカスタマーハラスメント対策セミナー」の実施、パンフレットや雇用労働情報サイトを活用した周知などに取り組んできており、コロナ禍におけるカスタマーハラスメントへの早急な対策として、経営団体や労働団体等と連携した企業向け対策セミナーの実施を検討する。

### ○第三者機関が客観的に実効性を評価できる感染防止対策について

(質問) ホテルや商業施設における世界的な新型コロナウイルス感染症対策の衛生認証制度として「SAFEGUARD ラベル」があり、県としてその取得を後押しすることが観光産業や宿泊業の回復につながる。第三者機関が客観的に実効性を評価できる感染防止対策について、どう考えているのか。

(答弁) 事業者の感染防止対策における第三者機関による認証については、事業者の一定水準以上の取組の確保や利用者の安心感の向上などにもつながることも期待される。事業者における認証取得費用やメリット、県として推進する場合の感染対策上の有効性や費用対効果など、しっかりと研究したい。



# ケアラーへの支援や児童生徒のうつ病対策を

## ○ケアラー支援について

(質問) ケアラー全体についての実態調査を行うべきと考えるが、どう認識しているのか、埼玉県が制定をしたケアラー支援条例も参考にしながら、啓発や支援等に取り組むべきだが、今後どのように取り組んでいくのか。

(答弁) 家族介護者の中には、周囲への協力を求めることができず、仕事や学業に支障をきたしている方もおられる。このため県としては、周囲から孤立することなく、仕事や学業と両立しながら介護を継続していただけるよう、支援している。県における実態把握については、現在行われている国の調査結果などを踏まえて検討してまいりたい。

## ○新型コロナウイルス感染症による児童生徒の不登校への影響について

(質問) 現時点での不登校の人数は昨年度と比較してどのような状況なのか、また、不登校の児童生徒へどのように対応しようと考えているのか。

(答弁) 不登校児童生徒の現状は、令和3年2月18日時点で小学校において不登校児童数が令和元年度が987名、令和2年度が1,193名で、206名増加。中学校では令和元年度が2,145名、令和2年度が2,122名で、23名減っている。今後、コロナ禍の影響も含めて、その要因や背景について分析を行う必要があるが、児童生徒の状況の変化を把握するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等も含め、チーム学校として取組を進める。



## ○小中高生のうつ病対策について

(質問) 子どものうつ症状の傾向を調べたところ、小学4年生から6年生の15%、中学生の24%、高校生の30%に、うつ症状の傾向が見られたとのこと。小中高生のうつ病や精神疾患の状況についての認識はどうか、また対策をどのように考えているのか。

(答弁) 「うつ病等の精神疾患」の悩み・影響による児童生徒の自殺者が増えている状況を深刻に受け止めている。心の不調や自殺のサインに気づき専門機関につなぐためのゲートキーパーの養成や、こころの健康に関する普及啓発を更に進める。また、SNS相談を入口とし、適切な専門の支援機関へつなぐとともに、必要に応じた医療が受けられるよう支援していく。

# 広島県議会政治倫理審査会の委員に指名

3月4日、広島県議会議員の政治倫理に関する条例第4条の規定に基づく審査請求書が提出されました。令和元年7月に行われた参議院議員選挙広島県選挙区における公職選挙法違反の罪に問われている前法務大臣の河井克行被告や妻の案里被告から現金を受け取ったとして検察の起訴状に記載されている、と報じられたこと等が、政治倫理条例に規定する行為規範に反する疑いがあり、議員が政治倫理に関し、政治的又は道義的な批判を受けたときは、真摯かつ誠実に事実を解明し、その責任を進んで明らかにしなければならない、とされていますが、責任も明確にされていないことから審査を請求されたものです。

議長は、審査の請求を受けて3月10日に政治倫理審査会を設置し、ふくち基弘を含め12名の委員を指名しました。3月12日に第1回の審査会が開かれ委員長に中原議員、副委員長に栗原議員を選任、第2回の審査会を3月26日に開いて運営方針を協議しました。

## 政治倫理審査会委員

委員長	中原 好治	副委員長	栗原 俊二		
委員	山木 茂(広島市西区)	畑石 顕司(広島市東区)	出原 昌直(福山市)	三好 良治(福山市)	
	宮崎 康則(広島市佐伯区)	福知 基弘(広島市西区)	井原 修(東広島市)		
	東 保幸(広島市安佐北区)	松岡 宏道(福山市)	城戸 常太(呉市)		